



WEB

BLOG



共に「杉戸の未来」を切り拓こう、
いつも、私たちは変化の先頭に。

「議員だけで決めている」から脱却し「杉人まちづくり」へ

2023年8月より議員となり、問い続けてきたのは

「この町は、誰のために、いつ決断するのか？」

初めて一般質問に立った時に違和感を覚えたのは、答弁の内容そのものではありません。「検討します」「注視します」「計画に基づき進めます」それらの言葉ばかりが幾度となく繰り返され、何事もなかったかのように次の議会が開かれる現状でありました。それらは町の人々にどう映るのでしょうか。

町の皆で未来に向かうための結論は、

いったい何処で生まれるのか？

そもそも結論を導き出すための仕組み自体、存在しているのか？

杉戸町民全員で創る「杉人まちづくり」化の早期実現を目指します。



有耶無耶になってしまっている町の課題対策と、それらに向き合う議会の姿勢



目的を失った政策の現場

最初に問いかけたのは「公約と現実の距離」についてでした。工程表はある。計画もある。けれど進捗が見えない。目的が達成されているのか、それとも「やっていること」自体が目的化しているのか。中核病院・大学誘致・道路整備 e. t. c. . . . どれも町にとって重要なテーマであるはずなのに、「なぜそれをやるのか」という問いに、明確な答えが返ってきたことは一度もありませんでした。

町民の希望を阻む体制

次に向き合ったのは、税金の使い方であります。補助金・指定管理・外郭団体。それらは町を支える仕組みである一方、点検されなければ惰性にもなりえます。

中でもシルバー人材センターに関する質問は象徴的でした。「非営利だから利益を出してはいけない」その誤解が、結果として補助金依存を生み、自立を遠ざけている。私は即時の削減を求めたわけではありません。求めたのは自立へ向かう設計と覚悟でした。



杉戸町の未来に向けた行動。今こそ必要と考える変革5カ年計画



議会という組織の在り方

議員を経験させていただき、肌身で感じたこととして、各々が役割を全うし議会体としては成立しているものの、重要な「最終判断を担う覚悟」が希薄である印象を受けたことです。縦割りは専門性を高めます。しかし今の時代は、専門性を束ね、全体最適で意思決定できる構造が求められています。

公共施設の老朽化・財源制約・将来負担。問題はすでに見える化され、数字も示されています。つまり「対処可能な段階」にあり、今の杉戸町に求めることの一つ目、それは「実行する責任を皆が持てる環境づくり」に他なりません。

持続可能な町へ

働き方改革・DX・財産管理の一元化。一見別々の政策に見えますが、本質は同じです。限られた人材・資源・財源を、最大限に活かす経営への転換。これは縮小ではなく、最適化による再成長です。未来を創造するとは、制度を増やすことでも計画を積み重ねることでありません。優先順位を明確に決断し、責任を引き受けること。その先に初めて杉戸町の進化が生まれます。杉戸町はコンパクトだからこそ機動力を持ちやすく変化しやすい町です。町の未来は設計できます。



計画よりも、決断を。
手続きよりも、責任を。
今と、将来を。

くりはら たけのり 後援会 事務所

北葛飾郡杉戸町杉戸416-11
✉ e_takenori@yahoo.co.jp

TEL 080-3121-0164

【生年月日】1964年11月17日

【職歴】杉戸町議会議員&会社役員

【学歴】杉戸西小学校 杉戸中学校 杉戸高等学校 中央工学校卒